

令和三年度 第三回例会

観世流

緑泉会

令和三年

十二月十八日(土)

午後二時開演

喜多六平太記念能楽堂



「安達原」 能 津村 禮次郎 (撮影 宮崎 光章)

お客様各位

令和三年九月現在緊急事態宣言は十九都道府県において月末まで延長されましたが、能公演につきましては開催が認められています。私たちはコロナ収束を待たず、コロナと共に活動する方法を探らなければなりません。感染対策を施しつつ、文化の継続に努めて参ります。

能楽堂にお運びくださる皆さま、お一人お一人が、伝統の継承の力となります。また、見所の皆さまと共に、能による心身の充実を目指して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



「殺生石」 能 新井 麻衣子 (撮影 吉越スタジオ)

【お客様へのお願い】

- ・ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- ・37.5℃以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- ・チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先（メールアドレス、または電話番号）をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に記帳をお願い致します。
- ※万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- ・当日の社会状況により、使用可能な座席の指定ならびに館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従って下さい。
- ・上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音が障りになる場合もございますが、ご了承下さい。
- ・上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

能 Noh 殺生石 Sessyoushiki 河井 美紀

狂言 Kyogen 昆布売 Koburi 野村 万作

能 Noh 安達原 Adachiharu 新井 麻衣子

能 殺生石

野干 河井 美紀

玄霧道人 殿田 謙吉

大鼓 柿原 光博 太鼓 吉谷 潔
小鼓 幸 正昭 笛 高村 裕

能力 中村 修一

後見 桑田 貴志
奥川 恒治

地謡

杉澤 陽子
佐久間 二郎
鈴木 啓吾
永島 充
中森健之介

狂言 昆布売

大名 野村 万作

昆布売 石田 淡朗

後見

月崎 晴夫

實 盛

津村禮次郎

仕舞 遊行柳 墨 敬子

野 宮

奥川 恒治

地謡

筒井 陽子
中森健之介
中所 宜夫
石井 寛人

能 安達原

里女 新井 麻衣子

山伏祐慶 安田 登

供山伏 高橋 正光

能力 飯田 豪

後見 石井 寛人

津村禮次郎

地謡

藤村 答
桑田 貴志
中所 宜夫
中森 貫太
吉留 敬高

附祝言

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能や他のお客様の迷惑となる行為は、遠慮願います。場合によっては退場頂く事もございますのでご了承下さい。

〔終了予定 午後四時三十分〕

能：殺生石(せつしようせき)

玄霧道人(ワキ)が、奥州から都へ上る途次、那須野に着くと、大石の上空を飛ぶ鳥が次々と落ちて行く。何事かと近づこうとする玄翁を、どこからともなく現れた里女(前シテ)が呼び留めて、昔の鳥羽院の上童に玉藻前という人がいて、その執心が石となって悪さをしていると語る。秋の夕べの那須野の原に狐であるようだ。秋の夕べの那須野の原には妖気が満ちている。

女はさらに玉藻前について物語る。どこかの誰とも知れないのいつのまにか殿上人となり、美貌と教養で鳥羽院を虜にした。ある秋の夜、清涼殿で管弦の御遊を催したが、怪しい風が御殿の灯火を悉く吹き消したが、玉藻前の身体より光が輝き辺りを月のように照らした。以来帝は病となったが、陰陽師の安倍泰成より玉藻前が原因であると奏上されると、帝はたちまち快癒、玉藻前は妖狐の本性を現して逃げ、この那須野で命を落した。

玄翁が物語の詳細なるを怪しむと、女は殺生石の石魂と明かして、石の中に姿を消す。土地の者(間狂言)に同様の物語を聞いた玄翁が折符を掲げていると、石は二つに割れて野干(狐のこと。後シテ)の姿が現れる。この野干は天然、唐土と悪事をなし、我が国に来て玉藻前となった妖狐で、安倍泰成に調伏され、那須野に隠れたが、勅命を受けて犬追物で訓練を重ねた東国の武士たちに、遂にこの那須野で射殺された。その有様を玄翁に見せて、この後悪事はしないと約束し、野干は石となって姿を消す。

狂言：昆布売(こんぷうり)

大名は外出するのにも供もないので、通りかかった昆布売をむりやり供にしてしまふ。しかし、怒った昆布売の反撃に遭い、逆に昆布売の手伝いをさせられる。次々と課される難題を大名は似合わぬ器用さでこなして行く。

仕舞

實盛(キリ(さねもり))

老体ながら白髪を墨で染めて木曾義仲との合戦に臨んだ平家の武者齋藤實盛。木曾との戦いを望むも、手塚太郎光盛に遮られて討たれた有様を、僧に頼って弔いを乞う。

遊行柳(ゆきやうやなぎ)

西行法師の歌に詠まれた陸奥の老柳の精

が、遊行上人に成仏の弔いを頼み、老体の舞を舞う。華やかな都に思いを馳せ、清水寺の楊柳観音、蹴鞠の庭の柳、桜と錦を争った様々な恋物語、とりわけ源氏物語の柏木に語り及ぶも、老体の衰えに足元はおぼつかない。

野宮(のみや)

六条御息所の霊は、源氏との思い出深い嵯峨野の野宮に現れる。昔のままの有様に懐きさが募り、伊勢の鳥居をくぐろうとするが、神に縋るのは憚りがあると思つたのか、また破れ車に乗って姿を消す。

能：安達原(あだちがはら)

那智の阿闍梨(ワキ)は、一人の供(ワキツレ)を連れて廻国行脚の修行に出る。奥州の安達原に着くが、人里遠い山中で日暮となり、灯りを頼りに一軒家を訪ねる。そこには憂き世を儂んで月日を送る女(前シテ)が一人で暮らしている。女は粗末な庵を恥じるが、山伏たちは半ば強引に宿を借りる。

部屋の片隅に糸車を見つけた祐慶は、その名を梓梓輪と聞いて興を起し、夜長の慰みにその有様を見せるよう申し入れる。日頃の営みを恥じながら女は糸車を廻す。来し方の悲しさに沈む女を、祐慶は「誠を尽せば成仏への道が開ける」と慰めるが、女の憂いは深い。糸尽しの歌を謡って心を奮い立たせても悲しきは深く、ついには泣き伏してしまふ。

突然女は様子が変わり、夜寒に薪を焚いてもたすために、木を採りに山へ上ると言う。その志を喜ぶ山伏を残して出かけようとする女は、山伏たちに決して闇の中を見ないよう強く念を押して出て行く。

この時同行していた能力(間狂言)が、その様子を不審に思い、山伏たちが寝入った隙に闇の中を見る。そこには累々たる死体が腐臭を放っていた。これは歌に詠まれた安達原の鬼の棲み家に違いないと、山伏たちは慌てて夜の山へ逃げ出す。女は鬼の本性(後シテ)となって山伏たちに襲いかかる。法力を尽くして対抗する山伏たちだが鬼の勢いはなかなか衰えず、五大尊明王を呼び出し、如来の真言、不動明王の誓文を唱えてかろうじて鬼を折り伏せる。鬼は弱り果てた身を恥じて姿を消すが、その声はなお夜風に恐しく響いていた。

2021. 12.18(土)PM1:00(開場 12:00)
喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎4-6-9
☎03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。

※駐車場がございませんので、お車のご来場はご遠慮下さい。



入場料

会員券(年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円
1回券(当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

河井 美紀 TEL 050-7129-2077
新井 麻衣子 TEL&FAX 04-2946-8389

令和3年度 第4回例会 2022年2月6日(日)

半能…… 老松 Oimatsu …… 墨 敬子
能…… 東北 Touboku …… 鈴木 啓吾
能…… 鉢木 Hachinoki …… 坂 真太郎